【フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県	鹿児島県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	枕崎市立立神小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	１３	２０
児童数	４５	４３	４９	５８	６０	６４	1	３１９	

Ⅱ　実践研究の概要

１．主題（テーマ）

子ども一人一人の「確かな学力」の定着をめざして
～個に応じた指導法の研究を中心に～

２．内容と方法

(1)　実施学年・教科
全学年・算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であるため）

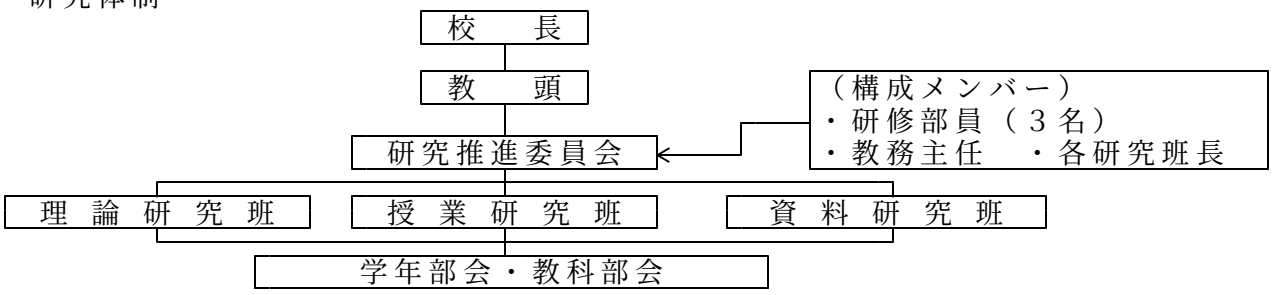
(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○　テーマ 『子ども一人一人の「確かな学力」の定着をめざして　～基礎学力の向上を中心に～』 ○　仮　説 研究内容に示す３つの視点について，年次的に追究していけば，子ども一人一人に「確かな学力」の定着が図れるのではないか。 ○　研究内容・方法 **〈視点　１〉**基礎学力（読み・書き・計算）を確実に身に付けさせる指導の改善 ・　基礎学力のとらえ方 ・　基礎学力を身に付けさせる指導のあり方の研究と実践（音読・漢字・計算） **〈視点　２〉**個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ・　Ｔ・Ｔ（少人数・習熟度別指導を含む）のあり方の研究と実践 ・　補充指導の時間の確保（放課後等）と実践 ・　教具，補助教材の作成と活用 **〈視点　３〉**学力の評価を生かした指導の改善 ・　評価規準の作成と活用 ・　標準学力検査等の実施による学力の定着度の客観的な把握 **※　研究成果の１年次中間発表【平成１５年１月２８日（火）】**

平成15年度	○　テーマ 『子ども一人一人の「確かな学力」の定着をめざして　～個に応じた指導法の研究を中心に～』 ○　仮　説 研究内容に示す４つの視点について，年次的に追究していけば，子ども一人一人に「確かな学力」の定着が図れるのではないか。 ○　研究内容・方法 **〈視点　１〉**基礎学力（読み・書き・計算）を確実に身に付けさせる指導の改善 ・　基礎学力を身に付けさせる指導のあり方の研究と実践（音読・漢字・計算） **〈視点　２〉**個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫改善 ・　Ｔ・Ｔ，少人数指導による指導方法（習熟度別指導・補充指導・発展学習等）のあり方の研究と実践　⇒　研究授業を通して ・　補充指導の時間の確保（放課後等）と実践 ・　教具，補助教材の作成と活用（補充指導，発展学習指導用） **〈視点　３〉**学力の評価を生かした指導の改善 ・　評価規準の活用と改善 ・　標準学力検査等の実施による学力の定着度の客観的な把握 **〈視点　4〉**家庭・地域との連携 ・　広報・協力体制の充実 ・　家庭学習の充実 ・　基本的生活習慣（早寝早起き）の定着 **※　研究成果の２年次中間発表【平成１５年１１月１８日（火）】** **※　児童の学力向上を図るには，家庭・地域との連携が欠かせないという考えから，視点4として「家庭・地域との連携」を新たに加えた。**

平成16年度	○　テーマ 『子ども一人一人の「確かな学力」の定着をめざして　～２カ年の研究・実践の成果と課題を生かして～』 ○　仮　説 研究内容に示す４つの視点について，年次的に追究していけば，子ども一人一人に「確かな学力」の定着が図れるのではないか。 ○　研究内容・方法 **〈視点　１〉**基礎学力（読み・書き・計算）を確実に身に付けさせる指導の改善 ・　基礎学力を身に付けさせる指導の実践（音読・漢字・計算） **〈視点　２〉**個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫改善 ・　Ｔ・Ｔ，少人数指導による指導方法（習熟度別指導・補充指導・発展学習等）のあり方の研究と実践　⇒　２カ年の研究・実践を生かした研究授業を通して ・　補充指導の時間の確保（放課後等）と実践 ・　自作教具，補助教材の活用 **〈視点　３〉**児童の学力の評価を生かした指導の改善 ・　評価規準の活用と改善 ・　標準学力検査の実施等による学力の定着度の客観的な把握 **〈視点　４〉**家庭・地域との連携 ・　広報・協力体制の充実 ・　家庭学習の充実 ・　基本的生活習慣（早寝早起き）の定着 **※　研究成果の発表【予定期日　平成１６年１１月５日（金）】**

(3)　研究体制

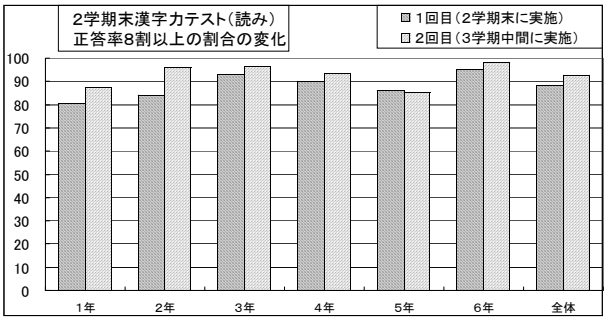


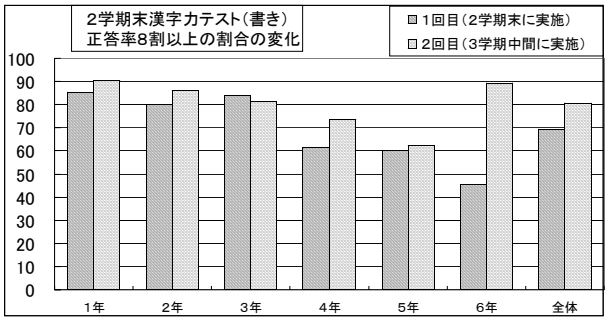
Ⅲ　平成１５年度の成果及び課題

〈視点　１に関して〉

○　成　果

・　基礎学力を「読み・書き・計算」ととらえ，１年次の実践を生かしながら全職員で徹底して指導したことで，基礎学力が向上した。





○　課　題

・　音読や漢字・計算練習などを，児童自らが意欲的に取り組めるように，内容や指導を工夫していく必要がある。

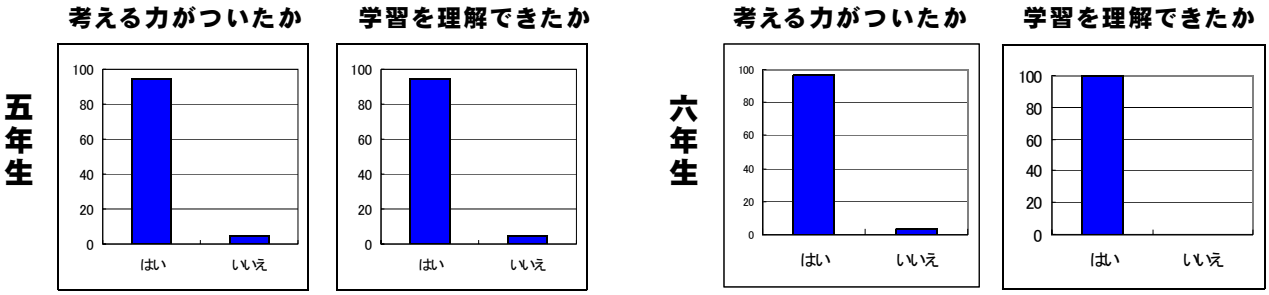
〈視点　２に関して〉

○　成　果

・　習熟度別指導やＴ・Ｔなどの学習指導方法を工夫改善し，個に応じた指導ができるようになり，児童の学習への意欲や理解度を高めることができた。

・　基本的な学習内容や次の題材に関わる学習内容を補充指導することで，１単位時間ごとの授業内容への理解を深めることができた。

「習熟度別指導実施後の児童の意識」より（平成１５年１１月実施）



○　課　題

・　補充指導の時間や方法をさらに検討することで，基本的な学習内容だけでなく，発展的な学習内容も指導するなど，より充実を図る必要がある。

〈視点　３に関して〉

○　成　果

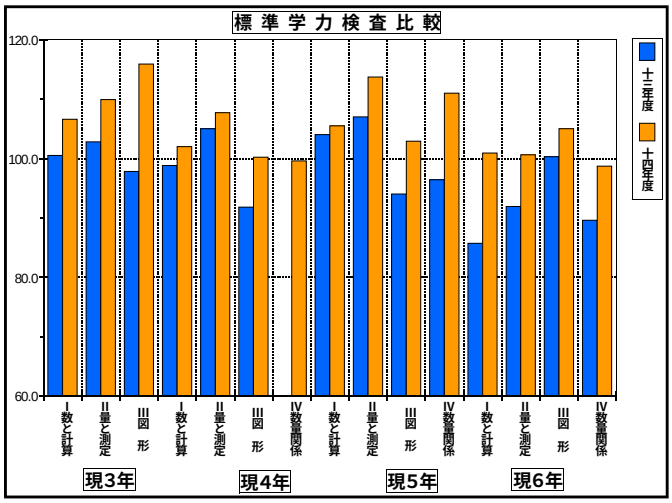
・　標準学力検査，漢字・計算力テストなどの分析から，児童一人一人の実態が明らかになるとともに，それを生かした指導を計画的に行うことができた。

・　評価規準を活用し，評価方法を工夫したことにより，児童一人一人の理解度や習熟度を把握できた。

○　課　題

・　標準学力検査の結果について，個々の分析を行い，指導に生かしていく必要がある。

・　評価基準を活用したり，様々な評価方法を関連づけたりして，より客観性，信頼性のある評価を行っていく必要がある。



〈視点　４に関して〉

○　成果

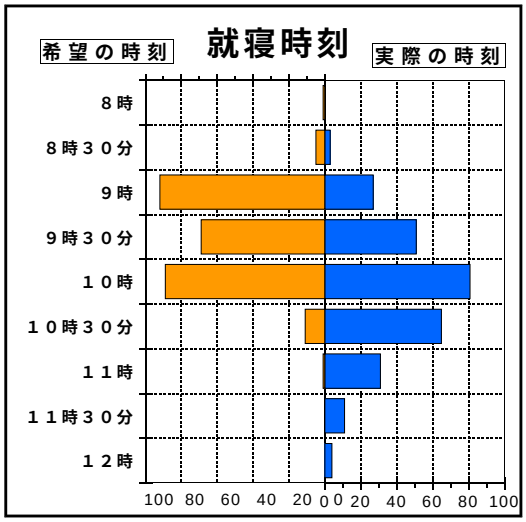
・　学力向上の意義や学校での取り組みを様々な方法で広報することにより，家庭・地域との協力体制が整い，保護者と連携をとりながら家庭学習の充実を図ることができた。

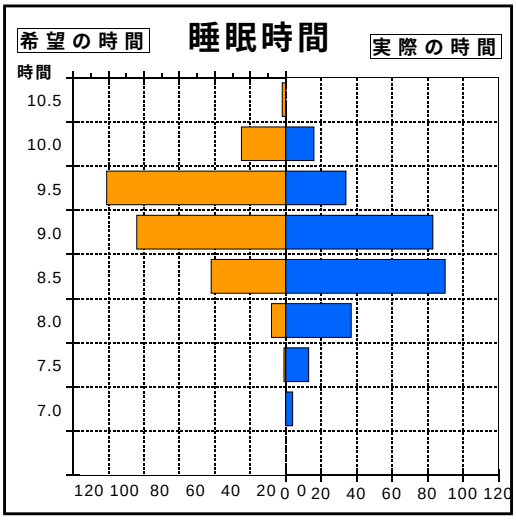
・　基本的生活習慣（早寝早起き）について，保護者と協力しながら改善することで，児童，保護者の意識が高まり，家庭学習の充実に結びつけることができた。

○　課題

・　児童の学ぶ意欲に基づいた，趣味としての読書や興味・関心を生かした学習などができるように家庭学習の充実を図る必要がある

「生活習慣アンケート（保護者）」より（平成１５年７月実施）





Ⅳ．学力把握のための学校の取り組みについて

○　評価規準の活用による指導と評価の一体化（毎時間）
○　漢字力・計算力テストの実施（学期２回）
目的・内容：　各学期末に，その学期に学習した内容をテストする。次の学期中間に同じ内容のテストを行い，基礎学力の定着を図るとともに，結果分析を行い，指導に生かす。
○　標準学力検査（ＣＲＴ）の実施（１月下旬実施）
目的・内容：　各学年で学習した内容の到達度を把握するとともに，結果分析を行い，学年のまとめ学習と指導に生かす。また，分析結果を次年度の指導計画の参考にする。

Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

（平成１４年度）
○　公開授業及び授業研究会の開催
期　日：平成１５年１月２８日（火）
場　所：枕崎市立立神小学校
テーマ：『子ども一人一人の「確かな学力」の定着をめざして』
対　象：市内各小・中学校より１５名，市教委・教育事務所より３名の参加
（平成１５年度）
○　中間発表会の開催
期　日：平成１５年１１月１８日（火）
場　所：枕崎市立立神小学校
テーマ：『子ども一人一人の「確かな学力」の定着をめざして～個に応じた指導法の研究を中心に～』
対　象：県下全域の小・中学校
目　的：「確かな学力」定着に向けて取り組んできた研究の成果を発表することで，その内容を深めるとともに，研究発表や授業研究を通して研究内容の改善・充実を図る。
（平成１６年度）
○　研究公開の開催
期　日：平成１６年１１月５日（金）
場　所：枕崎市立立神小学校
テーマ：『子ども一人一人の「確かな学力」の定着をめざして～個に応じた指導法の研究を中心に～』
対　象：県下全域の小・中学校
目　的：研究成果の普及

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【　新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　☒１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　☒１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　☒少人数指導　☒Ｔ・Ｔによる指導　□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　□国語　□社会　☒算数　□理科　□生活　□音楽　□図画工作　□家庭　□体育　□その他

【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】　☒有　□無